

伝票チェック業務の工数50%削減が実現 —「今では、Robotaが“なくてはならない存在”に」

オムロン エキスパートリンク株式会社

- 事業内容
- オムロングループ向け人事関連業務
 - オムロングループ向け総務関連業務
 - オムロングループ向け経理関連業務



左から檜木 亜矢子氏、山室 道子氏、柿原 久美氏、佐々木 正男氏

国内オムロングループの人事・総務・経理機能を担う、オムロン エキスパートリンク株式会社。「われわれの働きでわれわれの生活を向上し よりよい社会をつくりましょう」をミッションとして掲げ、各スタッフ業務におけるサービス品質や運営効率の向上、プロフェッショナル人材の育成などに取り組んでいる。

今回、経理部門において伝票処理業務の効率化を実現するべく「Robota」を導入いただいた。導入の背景と効果、今後の展望について、同社 理財センタ ファイナンスマネジメント部 部長の佐々木氏と、理財センタ ファイナンスマネジメント部 債務管理課の柿原氏、檜木氏、山室氏の4名に話を伺う。

背景・課題

OCR技術を活用し、支払伝票約7,000件の目視チェックを自動化したい

—まずは貴社のご紹介からお願いいたします。

佐々木氏：当社は、国内オムロングループの事業基盤となる人事・総務・経理機能を一手に担う企業です。高度な専門性を持つ人材を集約・育成して質の高いサービスをグループ各社に提供していくこと、また業務プロセスやルールを標準化してガバナンス強化や運営効率の向上に繋げていくことを主な役割として取り組んでいます。

—「Robota」を導入いただいた背景や、当初抱えていた課題とはどのようなものでしたか？

山室氏：経理部門において、出納業務の集約と標準化を進めていくためにリソースの確保が喫緊の課題となっていたことを背景に、支払伝票の処理業務の効率化を図る取り組みがスタートしました。

檜木氏：当時は毎月約7,000件に及ぶ支払伝票について、支払先や金額、消費税、科目といった各項目に相違がないか、件数の漏れがないかをすべて目視でチェックしていました。経理部門の担当者にとっては、請求書と伝票のみを見て各項目の正誤を判断することは難しく、不明瞭な項目については都度発注内容を把握されている事業部門の方に相談し、情報をインプットした上で判断しなければなりません。この一連の作業にかかる膨大な工数を削減するために、OCR



理財センタファイナンスマネジメント部
債務管理課
檜木亜矢子



理財センタファイナンスマネジメント部
債務管理課 ファイナンスアソシエイト
主査
山室 道子

技術を活用した業務の自動化を検討するようになりました。

山室氏：またOCR技術の活用によって、経理担当者がそれぞれ自身に割り当てられたグループ会社の伝票を扱うという業務の性質から生じる属人化、目視で確認を行うことによるミスや不正のリスクといった課題も解消できるのでは、という期待もありました。

—「Robota」を導入いただいた決め手はどのような点でしょうか。

山室氏：大きな魅力だと感じたのは、読み取り精度の高さです。どのようなフォーマットの請求書でも、金額が複数個記載されていたとしても、求める項目をしっかりと読み取ってくれます。数年前から紙の書類の取り扱いをなくそうとOCR技術について情報収集を始めていたものの、精度や座標指定にかかる工数を考えて断念していたので、座標指定を必要とせずここまで精度を実現できることに驚きました。

また、ファーストアカウントティングさんのご対応も、大事な決め手の一つです。チェック項目などについて詳しい助言をいただけて「さすが経理業務に特化した製品を作られている会社さんだな」と感じましたし、調達・購買システム「SAP Ariba」への導入についてご相談した際の「導入の前例はないけれど必ず実現します」というお言葉に、ぜひ一緒にしたいと思わされましたね。

導入効果

支払伝票の約50%で自動チェック・承認が実現

—導入を進められる際の懸念点などありましたか？

柿原氏：「Robota」で読み取ったデータを「SAP Ariba」に取り込む際に必要となるAPIの設定が難しく、ファーストアカウンティングさんにとっても、ご紹介いただいたベンダーさんにとっても初めてとのことと苦労しましたが……皆さんと当社のIT部門とで試行錯誤を重ねて、導入前のお言葉通り実現いただくことができました。

—現在の、「Robota」の活用状況についてお聞かせください。

檜木氏：現在は「SAP Ariba」と「Robota」を連携させて支払伝票のチェックを自動で行っています。またこの連携がうまく機能していることを受けて、次は「SAP Concur」と連携させて経費精算における領収書のチェック業務も自動化しようと取り組みを進めている段階です。

—「Robota」を導入いただいたことによる効果を、どのように実感されていますか？

柿原氏：支払伝票については、全体の50%ほどは人の

目視チェックを要さず自動で承認できるようになりました。実際に「Robota」を業務で使ってみる中で読み取り精度への安心感を改めて感じており、業務の負担が大幅に軽減されて助かっています。

檜木氏：多い日で100件以上の伝票をチェックしなければいけなかった当時感じていた「これだけ捌かなければ」というプレッシャーから解放され、心に余裕が生まれました。

山室氏：またインボイス制度導入に伴ってチェックすべき項目が増えましたが、こうした変化にも「Robota」の機能でしっかりと対応できており、今では「Robota」がなくてはならない存在になっていると感じます。



理財センタファイナンスマネジメント部
債務管理課 リーダ
主査
柿原 久美



今後の課題と展望

自動承認率の向上と、経費精算での自動チェック・承認実現を目指す

—今後の展望と、その中で当社に期待されることがあればお聞かせください。

山室氏：まずは自動承認率を70%ほどにまで高めていくことが直近の課題です。日々精度が高まっている「Robota」のさらなる進化に期待しつつ、読み取れなかったものをファーストアカウンティングさんにご提供してご要望をあげるなど、ユーザー側からも積極的に取り組んでいければと思っています。

檜木氏：また経費精算でも自動チェック・承認ができる状態を目指して、「SAP Concur」との連携も進めていきます。現場の皆さんが承認を待つストレスを感じず、経理担当者も繁忙期でも大きな負担や現場の方々をお待たせする心苦しさを感ぜずに済むように、タイムラグのない運用を実現できれば嬉しいですね。

佐々木氏：より長期的な視点では、現在急速に進化を遂げているAIをはじめとしたさまざまな技術を、積極的に経理部門の業務に取り入れていくことがテーマになると考えています。例えば、現場の皆さんからの問



理財センター
ファイナンスマネジメント部
部長
佐々木 正男

い合わせ対応において、知識の蓄積や対応の均質化などにAIを活用していければという構想がありますし、他にも資産計上や与信管理などテクノロジーによる課題解決に期待できるテーマはさまざまあります。

そうしたテクノロジー活用の取り組みを、「経理部門が困っていることを解決しよう」と寄り添ってくださるファーストアカウンティングさんと、同じように困りごとを抱える他社の経理部門の皆さんと力を合わせて、一緒に進めていければと思います。

記事の内容は、2024年4月25日時点での情報です。

FAST ACCOUNTING

ファーストアカウンティング株式会社

独自の AI-OCR 技術で紙証憑をデジタル化することで、
経理の負担を軽減し、貴社の生産性向上を支援いたします。

<https://www.fastaccounting.jp/>

